

図説 植民地教科書

佐藤広美
岡部芳広 ●監修
山本一生

二〇二六年六月刊行予定!

定価 ● 29,700円 (本体27,000円+税10%) ISBN 978-4-8350-8907-2

【電子版】二〇二六年夏、刊行予定

編集 ● 佐藤広美 (日本国内)・岡部芳広 (台湾)・山本一生 (満洲・中国占領地・山下達也 (朝鮮)・小林茂子 (南洋諸島)・清水知子 (東南アジア)・合津美穂 (台湾)
体裁 ● 全1巻 / B5判 / 単色刷 / 上製クロス装 / カバー付 / 約280頁
執筆者 ● ホール・アンドリュウ / 一盛真 / 伊月知子 / 井上薫 / 上田崇仁 / 宇賀神一 / 大石茜 / 岡部芳広 / 北川知子 / 北島順子 / 黒川直美 / 合津美穂 / 小林茂子 / 佐藤広美 / 佐藤由美 / 清水知子 / 白柳弘幸 / 新保敦子 / 滝澤佳奈枝 / 陳虹彩 / 祝利 / 中川仁 / 藤森智子 / 船越亮佑 / 白恩正 / フリック・ウルリッヒ / 丸山剛史 / 宮脇弘幸 / 山下達也 / 山本一生

【お薦め先】 教育と戦争に関心をもつ一般読者、中高教育関係者、大学・公共図書館など。教育史、植民地教育、教育行政、各教科研究者、メディア史、近現代史、民衆史などの研究者。

【本書の特色】
1. 台湾、朝鮮、「満洲」・中国占領地、南洋群島、東南アジア、そして日本国内の6つの地域ごとに、植民地教育の実態を伝える教科書のエッセンスを抽出、教育史研究における第一線の知見をもとに解説。植民地教育の全体を俯瞰するはじめての入門書。
2. 豊富な教科書図版やイラストは、当時の日本の視点からみた植民地の実態を興味深く伝える。
3. 各章に附されたコラム、用語解説、総合年表や系統図で植民地教科書の全体像を総覧する。



新刊のご案内

幼児教育資料アーカイブ6 児童の村関係資料集成 全3回配本・全7巻・別冊1

編集・解説 ● 浅井幸子
揃定価 ● 217,800円 (揃本体198,000円+税10%)
解説執筆 ● 福元真由美・川地亜弥子
協力 ● 豊島区立郷土資料館、高知県立図書館、高知県立文学館、今井紅子氏、門脇厚司氏 ほか
推薦 ● 門脇厚司・佐藤学・田嶋一
体裁 ● A4判(2面付) / 上製 / 総約2400頁
別冊 ● 『児童の村関係資料集成 解説』(仮) A5判 / 並製 / 約150頁 定価2,200円 (本体2,000円+税10%) ※分売可

配本 / 刊行予定 / 定価 / ISBN - NO (978-4-8350)	巻数	巻タイトルほか
第1回 / 2026年4月 揃定価92,400円 (揃本体84,000円+税10%)	第1巻:新聞(村だより・太陽の子供ほか) 第2巻:文集1(めぼえ・朝日ほか) 第3巻:文集2(川組/海組文集ほか)	8895-2
第2回 / 2026年7月予定 揃定価61,600円 (揃本体56,000円+税10%)	第4巻:小砂丘忠義 第5巻:上田庄三郎	8899-0
第3回 / 2027年4月予定 揃定価63,800円 (揃本体58,000円+税10%) ※別冊を含む。	第6巻:児童の村資料 第7巻:子供の村資料	8902-7

※配本・巻名・構成は変更となる場合がございます。

史料 近代沖縄教育史 — 喜舎場英勝の生きた世界

藤澤健一・近藤健一郎・萩原真美 編著
定価22,000円 (本体20,000円+税10%)
B5判 / 上製(函入) / 346頁
ISBN978-4-8350-8894-5
1920年代末から沖縄返還後まで、教員として生きた喜舎場英勝(1907-2001)。彼が生きた時代の教育現場の実践を、豊富な史料から描き出すはじめての試み。職員会、学校行事などの貴重資料96点を翻刻で収録、さらに「喜舎場英勝史料一覧」「学校沿革誌・戦前期刊行の学校記念誌一覧」「参考文献一覧」「人名・事項索引」も。本格的な沖縄教育実践資料集。

方言札の近現代史 — 沖縄言語教育の研究

梶村光郎 著
定価7,150円 (本体6,500円+税10%)
A5判 / 上製 / 314頁
ISBN978-4-8350-8833-4
近現代の沖縄において使用された方言札。その経緯をひもとく、国家による標準語教育の歴史を総覧する。方言札の出現から、標準語励行、綴方教育との関係、戦中・戦後の展開をていねいに跡づけた労作。補章としてベトナムにおける少数民族の教育政策も論ず。方言札を通してみる沖縄教育の現実。

不二出版
〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10
TEL 03-5998-6704
FAX 03-5998-6704
振替 0016002940084

表示価格はすべて税込

教科書にみる、帝国日本の植民地教育のかたち！

台湾、朝鮮、「満洲」・中国占領地、南洋群島、東南アジア……
膨大な植民地教科書から、そのエッセンスを抽出、最新の研究をふまえて日本の植民地支配を浮き彫りに。目でみる「植民地教科書」事典の登場です！

図説



■これまでとちがう身体技法、生活を浸透させるラジオ体操も国語の教科書に取り入れられた。(『公学校用国語読本』巻三(第1種)、台湾総督府、1940年より)

植民地教科書

監修 ● 佐藤広美・岡部芳広・山本一生

◎この1冊で、植民地下の教育と教科書のエッセンスがわかる

◎全6地域にわたる教科書を、92のトピックから解説

◎各章のコラムと用語解説、総合年表や関連資料が全体像を示す

植民地下の教育とは
いかなる意味をもっていたか？



不二出版

■背景イラストは台湾における低学年用の国語教科書。日章旗をふって「戦争ごっこ」に興じる少年たちがえがかれている。(『コクゴ』二、台湾総督府、1943年より)



